

先生編

難聴をもつ小・中・高校生の 学校生活で大切なこと



難聴児への関わり方がよく分かる **20** のヒント

- 困っているとは言わないけど、大丈夫かな？
- おとなしくてあまり発言をしないけれど…。
- みんなが笑っていても笑っていないことがあるなあ。
- 成績が落ちてきた教科があるけれど…。
- 最近友だちと何かトラブルがあったような…。

目次

はじめに	P2
1. 難聴児の聞こえにくさ	P3
2. 具体的な対応のヒント	
—学校生活での問題と必要な支援—	
（Ⅰ）授業	P5
（Ⅱ）教科学習	P7
（Ⅲ）友人関係	P9
3. 配慮や支援をするときのポイント	P11
おわりに	P13

はじめに

近年、何らかの障害があっても、障害のない子と一緒に受ける教育“インクルーシブ教育”で学ぶ子が増えています。難聴のある子（以下、難聴児）も同様に、インクルーシブ教育を受けることが増えていて、補聴器や人工内耳を使いながら、あるいは難聴の程度が軽い場合にはそういった機器を使わずに過ごしています。

一見普通にしゃべっている、普通に聞こえているように思える難聴児でも、正常な聴力の子とは聞こえに差があり、学校生活で様々な課題や悩みを抱えています。それだけでなく、二次的に学習や友人関係などに問題が生じることも多いです。片耳だけ聞こえにくい難聴児（一側性難聴児）でも、学校生活において何も問題がないというわけではありません。

このパンフレットでは、難聴児が学校生活でどのようなことに困っているか、またどのようにしたら難聴児が授業にしっかり参加できたり、先生や友人とよりよいコミュニケーションを取れたりするかについてまとめています。担任・担当している先生方にお読みいただき、必要な配慮や対応について理解を深め、授業や校内・校外の活動などで役立てていただければと思います。

難聴児が有意義な学校生活を送るために、お力添えいただけますようお願いいたします。



1. 難聴児の聞こえにくさ

難聴の程度と聞こえ方

難聴の程度によって聞こえ方が違います。どのようなことが不自由かを下に示します。

程度	聞こえ方
<input type="checkbox"/> 軽度 25-40dB	小さな声や騒音下での会話の聞き取りにくさや聞き間違いが多い。 テレビの音を大きくする。
<input type="checkbox"/> 中等度 40-70dB	普通の大きさの声の会話での聞き取りにくさや聞き間違いが多くなる。 特に雑音下では聞き取りが難しい。
<input type="checkbox"/> 高度 70-90dB	非常に大きい声か補聴器を装用するかでないと聞き取れない。 補聴器がないと向かい合っただけの会話でも難しい。
<input type="checkbox"/> 重度 90dB 以上	生活音や耳元での大声がほとんど聞こえない。人工内耳の適応である。 読話（口の動きを見て言葉を読み取る）を併用していることが多い。

難聴児の聞こえ

— 補聴器・人工内耳を装用していても「普通に聞こえている」わけではない—

起こりやすい問題は？

- 音は聞こえていても、言葉としては完全には聞き取れない
- 雑音下、離れた場所では特に聞き取りにくい

補聴器や人工内耳などの機器である程度聞こえを補うことができますが、正常聴力の子たちと全く同じ状態ではありません。音は聞こえていても、言葉としてはよく聞き取れず、理解できないということがしばしばあります。

「聞きたい音（声や話）をちょうど聞きやすい大きさではっきり聞き取れる」ようにするためには、どうしたらよいのでしょうか。

一般的に、1 対 1 で静かな場所、近距離での話は聞き取りやすいです。

複数人での会話、雑音のある場所、離れた場所からの話は聞き取りにくいです。

難聴児にとって、学校生活では情報が入りにくい状況が多々あります。特に、校外での学習、体育館や運動場での一斉指導、グループ学習、校内放送での連絡などの場面では聞き取りが困難になります。

難聴児の声 どんなことに困っている？

- ・ みんながしゃべっていると、何を言っているか分からない。
- ・ 遠くから声を掛けられると聞き取れない。
- ・ 後ろから声を掛けられても気付かない。
- ・ 大きな声がうるさく聞こえる。
- ・ 全体集会の時、マイクの音量が大きすぎると音が響いて頭が痛い。



具体的に、どのような配慮や対応をするとよいのでしょうか？

次の7つのヒントは、どのような場面にも共通する対策です。

まずは、この中の1つから始めてみてください！

配慮・対応のヒント

- ① 静かになってから話す
- ② 正面から話す
- ③ 口元を見せて話す
- ④ 言葉のリズムを崩さずゆっくり、はっきり話す
- ⑤ 注意を喚起してから話を始める
- ⑥ 遠くで話している内容は再度伝え直す
- ⑦ 視覚的な情報(板書・掲示など)を使う



2. 具体的な対応のヒント

—学校生活での問題と必要な支援—

次に授業、教科学習、友人関係に分けて、起こりやすい問題とそれらを改善するために必要な配慮や対応を挙げます。当院で行ったアンケートから、難聴児が実際に困っていることについて、その声も抜粋しています。

(I) 授業

起こりやすい問題は？

- 授業内容が十分聞き取れていない、理解できていない
- 授業の流れについていけない
- 発表が聞き取れず、先生と生徒のやり取りから脱落しやすい
- グループ学習で話し合いの内容が聞き取れない

難聴児の声



- ・ 板書中の話や突然の質問が聞き取れない。
- ・ 大声や雑音が響く。
- ・ 突然質問されても・・・。
- ・ 発表する時、友だちの言ったことが聞き取れないから、自分の内容と被っていないか不安になる。



配慮・対応のヒント

- ⑧ 聞き取りやすい座席の位置にする
- ⑨ 指名してから質問内容を伝える
- ⑩ 具体物・指さし・身振り・ジェスチャーなどを活用する
(特に距離が離れた場所や体育の時)
- ⑪ 板書を終えて、正面に顔を向けてから話す
- ⑫ 他の子の発言を復唱して伝え直す
- ⑬ どの教科でも補聴援助システムを使えるように教師間で情報を共有する



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策について

マスクをしていると何を言っているか分からない!!



現在 COVID-19 拡大予防対策として、マスクの着用、ソーシャル・ディスタンスの確保、換気のための窓やドアの開放などが推奨されています。けれども、これらの対策下においてコミュニケーションの問題を抱える難聴者は非常に多く、以下のような状況で聞き取りの難しさを抱えています。

①マスク着用下

大人数での会話は特に不便ですが、少人数での会話も聞き取りにくくなります。口元が見えず、口形を読み取れないため、読話の併用ができなくなります。

②公共の場、ソーシャル・ディスタンスを保っている時

雑音がある、距離が離れているといった場合は特に聞き取りにくくなります。

③オンライン授業

聞き取りの難しさ、聞き直しにくさを感じている難聴者は多いです。

- ・特に難聴の程度が強い人では、聞き取りに多大な支障を来していますが、軽度難聴や一側性難聴の人でも聞きにくさを抱えています。
- ・COVID-19 対策下では、話し方の配慮や視覚情報の併用が重要になります。ヒントとして挙げている項目を取り入れるようにしてください。

(Ⅱ) 教科学習

起こりやすい問題は？

- 聞き取りが難しく、特定の教科が不利になる
- 学習の理解が不十分な状態が続くと、学力低下が起こってくる

多くの難聴児は、聞こえにくいことにより不利になっている教科があると感じています。学力に関しての問題が生じてくる子も多いです。学年に相応する学力を有する難聴児は40%程度との報告もされています。

それぞれの教科によって、苦手な内容は違ってきます。

特に難しい教科とその内容

英語

リスニング>スピーチ（発音）>リーディング>ライティング

微細な発音の違いは聞き分けにくいいため、特にリスニングやスピーチは難しい。



音楽 音階・音程・リズム合わせ

高度・重度難聴児では、微細な音の高低を聞き分けにくいいため、特に歌唱が難しい。

楽器音があまり大きいと響いてうるさく聞こえる。

体育 距離が離れている時、補聴器などを外している時の聞き取りが困難。

国語 語彙力や構文理解力、読解力などが伸び悩む。

算数・数学 文章題の把握、抽象概念の理解などが難しく、問題が解けない。



難聴児の声 どんなことに困っている？

- ・音読で誰がどこから読んでいるのか分からず、指名されたときに困る。
- ・外国人の声が聞き取りにくい／英単語の発音が分からない。
- ・リスニングを免除してほしい。
- ・歌のテストを個別でしてほしい。
- ・シンバル・太鼓・鉄琴の音が響く。
- ・リズム・テンポが分からなくて、皆で踊るダンスについていけない。
- ・プールでは補聴器・人工内耳を外すため、ほとんど聞こえない。
- ・テスト中の指示が分からない。
- ・教科によっては個別に対応してほしい。



配慮・対応のヒント

- ⑭ 聞き取りに限界があることを理解する
発音や音程、リズムの取りにくさは仕方がないので、細かい指摘は控えてください。
- ⑮ 苦手な教科・分野を理解し、必要なら個別対応での評価を
- ⑯ 学習の遅れがあるならば、個別指導も検討を
遅れが過大にならないうちに対策を取ることは重要です。



(Ⅲ)友人関係

起こりやすい問題は？

- 聞き取りにくいために何気ない雑談についていけない
 - 「ノリが悪い」「空気が読めない」など誤解を受けやすい
 - 疎外感・孤独感を感じやすい
- 友人に難聴のことをどう伝えてよいのかわからない
- 難聴のことを友人に理解してもらえない
 - コミュニケーションに問題が生じる

聞き取りが悪かったり、言語発達に課題があったりする難聴児では、周囲との関係の構築に問題が起こりやすいです。口元を見て話を聞くため、表情まで見る余裕がなくなるのも原因の1つであると考えられます。

両側性難聴児だけでなく一側性難聴児であっても、友人関係に問題を抱えていることが多く、中学生、高校生になると深刻化する場合があります。特に思春期に心理面での不安定さや行動面での問題、対人関係でのトラブルが起こってくる難聴児は多いです。

疎外感やストレスといった心理的要因から不登校になる子もみられます。



難聴児の声 どんなことに困っている？

- ・ 会話や雑談が聞き取れない。
- ・ 何回も聞き返しにくく、会話に入りにくい。
- ・ 一側性難聴で聞こえない側から話し掛けられると聞き取れない。
- ・ 友だちとのちょっとした雑談に入りにくい。
- ・ 聞き取れないまま、作り笑顔をしてしまう。
- ・ 悩みを共有できない。
- ・ 周りが理解してくれない。
- ・ 聞こえていないのに、周囲に無視をしたと受け取られることがある。
- ・ 発音についてからかわれる。
- ・ 疎外感を感じる。
- ・ いじめを受けた。



配慮・対応のヒント

⑰ クラスメイトへの情報提供

(補聴器・人工内耳の必要性、聞こえ方、必要な配慮)

特に思春期では特別な支援を受けることを嫌がる場合もあるので、目立たない形での配慮を心掛けてください。



⑱ 理解してくれる人の存在は重要

難聴を理解し、協力してくれる人、話を聞いてくれる人、難聴児である友人等の存在は心理的問題の軽減に重要です。

⑲ 必要に応じて専門家(小児科医、精神科医、臨床心理士など)への相談

⑳ 「配慮や支援を受けるために、自分の不便な点を周囲に伝えて理解してもらう」練習をさせることも必要



3. 配慮や支援をするときのポイント

ここで、ポイントをまとめます。

① 話し方を配慮する



言葉のリズムを崩さず、ゆっくり、はっきり話すと分かりやすいです。

② 聞こえやすいよう環境を調整する

可能な範囲で「1対1」「静かな場所」「近距離」という条件に近づけて話をするよう工夫していただければと思います。



雑音がある時は、なるべく静かになってから、話をしてください。

正面方向から話す、注意を促した後に質問するといった配慮も重要です。

③ 視覚的な情報を併用する

板書やプリント、配布資料などを積極的に使うようにしてください。



アイコンタクトを取ってから会話や質問を始めることも、視覚的なヒントになります。

④ 本人がどうしてほしいかを確認する

これまで一般的な配慮や対応について説明してきました。しかし、難聴の程度や年齢、置かれている状況はそれぞれの難聴児によって異なるので、必要な配慮や支援にも違いがあります。



本人・保護者が「どういった場面でどのような工夫をしてほしいと考えているか」、先生方が「対処可能な方法はどんなことか」を話し合い、それぞれの状況や意向を擦り合わせて対応の方向性を決めていただきたいと思います。

小・中・高校生の難聴児の中には、「何が難しいか」「何をしてほしいか」を自分で伝えるのは難しい、あるいは伝えたくないと感じている子がいるかもしれません。しかし、将来的には自分に必要な支援を周囲に伝えるというスキル(セルフアドボカシー)を習得する必要があります。そういったスキルを身に付けられるように関わっていくことも重要です。

⑤ いろいろな立場の人と共に支援する

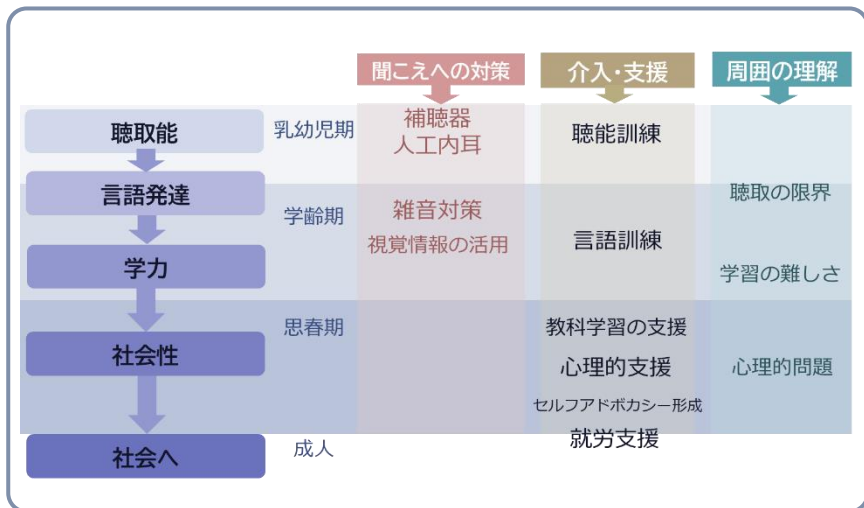


保護者の方と担任の先生だけが理解して手を貸すのではなく、多くの人がかかわって難聴児を支援していくことが望ましいです。支援員の配属、学習面でのサポート、また専門家による心理的負担へのアプローチなど、それぞれの子に合った方面から支援を行うことで学校生活が送りがやすくなる可能性が高くなります。

私たち医師・言語聴覚士も、先生方と一緒に難聴児を支援してきたいと考えていますので、何かありましたらぜひご相談ください。

まとめ

難聴児が抱える問題と対策 — 個別の対応と長期にわたる支援を —



おわりに

私たちが病院で診察をする時、難聴児に「何か困っていることがある？」という質問を投げ掛けると、「特にない」と答えることが多いです。しかし、難聴児がインクルーシブ教育を受ける中で、問題や悩みを全く感じていないわけではありません。もちろん、どの子ども発達の上で様々な問題や悩みを抱え、成長していきます。けれども、難聴児はそういった「だれもが経験する悩み」に加えて、聞こえにくさからくる生活上、学習上の困難さについて、周囲が気付かないストレスを抱えていることも多々あります。

このパンフレットが、担任・担当される先生方が、難聴児に対してより適切な配慮、支援を行う一助となればと思います。

各自の抱えている問題や悩みには差がありますが、難聴児たちが自己肯定感を持って、「勉強って楽しい」「学校って楽しい」と思って過ごしてほしいと願っています。



岡山大学病院 耳鼻咽喉科

2021年1月作成

- 本冊子は岡山大学図書館にリポジトリ登録されています。

<https://doi.org/10.18926/61938>



- PDF はダウンロード、複製使用が可能です。

Copyright: © 2021 by the authors. This is an open access article distributed under the terms and conditions of the Creative Commons Attribution (CC BY) license (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>).

先生編 難聴をもつ小・中・高校生の学校生活で大切なこと

2021年2月10日 第1版 第1刷発行

2021年5月6日 第1.1版 第2刷発行

著者 片岡祐子 中川敦子

岡山大学病院 耳鼻咽喉科

〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1

TEL 086-235-7307 (直通) FAX 086-235-7308

e-mail yu-kat@cc.okayama-u.ac.jp



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

